

諮 問 映 画

映 画 名	エターナルメモリー
制 作 者 等	M i c r o m u n d o , F a b u l a
内 容 ・ 推 奨 理 由 (案)	本作品は、チリの軍事政権下で活躍したジャーナリストのアウグストと文化大臣を務めた女優パウリナの愛情の記憶に迫ったドキュメンタリー映画である。 葛藤しながらも進行性の難病を受容していく夫婦の描写があり、他者とかかわり合いながら生きることを意味を学ぶことができ、青少年の良識や倫理観を育てることができる。 アウグストがジャーナリストとして活躍していた回想シーンは歴史の一端に触れることができ、徐々に病状が進行し物事の記憶が失われてかけていく描写は、身近な社会問題を考えるのに役立つものである。 コロナ渦で外出も出来ず家族や友人とも会えない環境下であっても、ふたりの優しさ、ユーモアを大切に暮らす日常の描写は、青少年の他者を慈しみ、大切にする心を育てるものである。 自分のアイデンティティを失い自暴自棄になるアウグストを献身的に介護するパウリナの様子は勇気を与えてくれるものであり、青少年の思考力や批判力、観察力を養うものである。 本作品は、条例施行規則第2条の優良図書類等の推奨の基準 第一号 青少年の社会に対する良識と倫理観を育てるものであること。 第二号 青少年が知識を身につけ、教養を深めていくことに役立つものであること。 第三号 青少年の人を慈しみ、大切にする心を育てるものであること。 第五号 青少年の思考力、批判力又は観察力を養うものであること。 に該当し、青少年（主として中学生以上）を健全に育成する上で有益であると認め、中学生以上を対象に推奨を行う。

諮 問 映 画

映 画 名	新渡戸の夢～学ぶことは生きる証～
制 作 者 等	新渡戸の夢映画製作委員会
内 容 ・ 推 奨 理 由 (案)	本作品は、新渡戸稲造が札幌農学校時代に創設した遠友夜学校に焦点をあてたドキュメンタリーである。 誰もが共に目標を持ち生きる人々の姿は、生涯において学び続けることの大切さと学びの本質について考える機会となり、社会に対する良識と倫理観を育てるものである。 新渡戸の教育者としての業績や精神を知り明治維新直後の日本文化に触れることは、青少年の知識を身につけ、教養を深めていくことに役立つものである。 年齢や人生経験の異なる生徒たちが、互いに相手のペースを認め理解できた喜びや次に挑戦しようとする描写は、青少年にとって相手を尊重する精神を涵養するものである。 本作品は、条例施行規則第2条の優良図書類等の推奨の基準 第一号 青少年の社会に対する良識と倫理観を育てるものであること。 第二号 青少年が知識を身につけ、教養を深めていくことに役立つものであること。 第三号 青少年の人を慈しみ、大切にすることを育てるものであること。 に該当し、青少年（主として中学生以上）を健全に育成する上で有益であると認め、中学生以上を対象に推奨を行う。